

としょかんにあたらしくはいた本

★のかがおおいほど、大きい人向けです。
 ★(乳幼児)→★☆☆→★★→★★★☆☆→★★★★(高学年)
 E・・・えほん(タイトルのあいいうえおじゅん)
 K・・・こどものほん(さくしやのあいいうえおじゅん)



Eセ『ぜったいぬをかうからね』★★
 ローレン・チャイルド/作 木坂涼/訳 フレーベル館
 ほくのいもうとローラは、まだちいさくて、てのかかるやつなんだ。さいきんはいぬにむちゅうで、いぬのはなしばかり。でもいぬをかうなんて、ママとパパがぜったいにゆるしてくれない。それなのにいもうとは、「ぜったいぬをかうからね!」といて…。



Eキ『キノキノとポキのふしぎなみ』★★
 種村有希子/さく 種村安希子/さく 講談社
 キノキノとポキのふたりは、きにすんでいるなかよしのこびと。まるいきにすんでいるポキは、やさしいはたらきもの。さんかくのきにすんでいるキノキノは、ちょっとこまったなまけもの。あるひ、キノキノのきが、ワタリドリのおんだけになってしまいました。それはワタリドリがおとしていった、すてきなおくりもので…。



K933ク『パイパーさんのバス』★★
 エリナー・クライマー/作 クルト・ヴィーゼ/絵 小宮由/訳 徳間書店
 ある日、大がバスのうんでん手のパイパーさんのうちまでついてきました。さらに、ねことひよこもいっしょにくらすことになり、うちのなかにはぎやかになりました。けれども大家さんにどうぶつたちをおいだすように言われ、パイパーさんはおんぼろバスにどうぶつたちをのせて、もらってくる人をさがしにでかけます!



Eマ『まほうの絵本屋さん』★★
 小手鞠るい/作 高橋克也/絵 出版ワークス
 ともだちがとおい外国にひっこしてしまって、ちょっとさびしいおんなのこが、こうえんであそんでいました。すると、ふくろうさんの「こっちへおいで」というこえがしたので、そちらへあいていって、絵本屋さんにとどつきました。くろねこのていんさんに、ともだちにプレゼントする絵本をえらんでもらおうと…。



K33『同級生は外国人!? 2』★★★
 吉富志津代/監修 松島恵利子/編著 汐文社
 外国で生まれて日本にやってきた子、日本で生まれ育ったけれど、家族のだれかが外国人の家の子。外国につながりを持つ子は、自分と少しちがうところがあるかもしれない。タイ人の男の子アットやアメリカ人と日本人のダブル・エマの例を、「なぜかうのかな」「どうしたら友だちになれるのかな」と考えながら見てみよう。



Eホ『ホッキョクグマ』★★★
 ジェニ・テズモンド/さく 福本由紀子/やく 長瀬健二郎/日本語版監修 BL出版
 ホッキョクグマの本をよみはじめた女の子。ホッキョクグマは「海のクマ」ともよばれていて、北極海の氷と雪の上で生きている、と書いてある…。野生のホッキョクグマのことがわかる本。



Eモ『もしぼくが本だったら』★★★
 ジョゼ・ジョルジュ・レトリア/ぶん アンドレ・レトリア/え 宇野和美/やく KTC中央出版
 もしぼくが本だったら、ずっとしまってきた昔の秘密を、ほくの読者とわかちあおう。もしぼくが本だったら、どの子にもある魔法の部屋に、いつでもとっておきの場所をもっていたい…。



K913オ『ほくのドラゴン』★★★
 おのりえん/作 森環/絵 理論社
 ほくの村では赤ちゃんはみんな、ドラゴンのたまごをにぎって生まれてくる。そのたまごがかえって、その子の一生の「あいぼう」になるわけ。ほくはアオバ、ドラゴンはアオ。ほくたちはずっといっしょに育ち…。



Eキ『きょう、★おともだちができたの!』
 得田之久/作 種村有希子/絵 童心社



E八『ペネロペのしんがっき』
 アン・グットマン/ぶん ★★ ゲオルグ・ハレンスレーベン/え ひがしかずこ/やく 岩崎書店



Eキ『キヤッツ』★★
 T.S.エリオット/ぶん ほるぶ出版 エロール・ル・カイン/え たむらりゅういち/やく



Eカ『かたあしの母すずめ』
 椋鳩十/作 大島妙子/絵 理論社 ★★



K51『調べようごみと資源1』
 大角修/文 松謙敬彦/監修 小峰書店 ★★



K916『タロとジロ』
 東多江子/文 佐藤や系子/絵 岩谷光昭/写真 講談社 ★★



K31『池上彰さんと学ぶ 12歳からの政治1』
 池上彰/監修 学研プラス ★★



K913モ『わたしの空と五・七・五』
 森楚こみち/作 山田和明/絵 講談社 ★★

